

令和元年度（2019年度）版

環境基本計画年次報告書

～東海市の環境の現状と施策の展開～



東 海 市

目 次

成果指標の評価

1	重点プロジェクト「環境教育」の実施状況	1
2	成果指標評価表	
柱1	環境教育	
・ 分野1	環境教育	2
柱2	環境対策	
・ 分野2	大気・ばいじん	4
・ 分野3	悪臭・騒音	5
・ 分野4	水質	6
柱3	環境保全・再生・創造	
・ 分野5	地球温暖化対策	8
・ 分野6	環境美化	9
・ 分野7	緑・水・生き物	10
柱4	廃棄物・リサイクル	
・ 分野8	3R活動	13
・ 分野9	適正排出・処分	15

参考資料

1	環境基本計画の概要	17
2	環境の柱ごとの基本的な施策	19
3	成果指標の算出方法	21
4	成果指標一覧表	23
5	計画推進の検討過程	25
6	環境基本計画推進委員会委員名簿	26

成果指標の評価

1. 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況

(1) エコスクール

50周年記念事業として、「環境ひろば とうかい50周年オープニングイベント」を5月18・19日に開催し226人の参加があるなど、22講座を実施し、1,310人の参加がありました。

(2) 環境イベントによるきっかけづくりと仲間づくり

リサイクルフェアを5月24日～26日に実施し、約1,500人の参加がありました。また、東海秋まつりにおいて、自然工作を行うイベントを開催し、129人の参加がありました。

(3) 美しいふるさと東海づくり～生物の生息空間の保全・再生

加木屋緑地、大池公園等で、『ふるさとの自然』を保全・再生し、次世代に継承していくためにホタル、オニヤンマ、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶ市民イベントを開催しました。

(4) 生活情報アプリなどによる情報提供

生活情報アプリは、平成28年（2016年）10月1日のサービス開始より、令和元年度（2019年度）末で8,791件のダウンロードがありました。

また、生活情報アプリ、コミュニティFM、ホームページ等でのごみの分別・リサイクル情報等の環境情報を発信した他、太田川駅前デジタル掲示板に環境情報、エコスクール情報等を掲示しました。

2 成果指標評価表

基準値はH24数値。目指す方向性の欄は、目標値(R5の数値)がある場合はその数値を記載し、目標値がない場合は矢印で方向性を示すもの

環境の柱1 環境教育

環境分野 1	環境教育	環境教育を推進する																						
成果指標1 エコスクールの参加者数（人）																								
<table border="1"> <caption>エコスクールの参加者数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>971</td></tr> <tr><td>H27</td><td>857</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1,139</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,371</td></tr> <tr><td>H30</td><td>891</td></tr> <tr><td>R1</td><td>1,310</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> </tbody> </table>			年度	参加者数（人）	H24	971	H27	857	H28	1,139	H29	1,371	H30	891	R1	1,310	R2		R3		R4		R5	
年度	参加者数（人）																							
H24	971																							
H27	857																							
H28	1,139																							
H29	1,371																							
H30	891																							
R1	1,310																							
R2																								
R3																								
R4																								
R5																								
成果指標の分析		目指す方向性																						
50周年記念事業の実施（参加者226人）等により、前年度から419人増加し、24年度と比較し339人増加し、おおむね順調に進展している。 年度により講座内容が異なり、参加人数の増減があるとともに、天候の影響を受けやすい。																								

成果指標2 生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）																								
<table border="1"> <caption>生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ダウンロード数（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2,357</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,455</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6,300</td></tr> <tr><td>R1</td><td>8,791</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> </tbody> </table>			年度	ダウンロード数（件）	H24	0	H27	0	H28	2,357	H29	4,455	H30	6,300	R1	8,791	R2		R3		R4		R5	
年度	ダウンロード数（件）																							
H24	0																							
H27	0																							
H28	2,357																							
H29	4,455																							
H30	6,300																							
R1	8,791																							
R2																								
R3																								
R4																								
R5																								
成果指標の分析		目指す方向性																						
累計ダウンロード数は前年度から2,491件増加した。 順調といえるため、引き続き、イベント等での啓発を行っていく。																								

【主な事業】

- ・ エコスクール開催補助事業
市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助を行った。
 - ・ 講座数 22講座
 - ・ 主な講座 藤前干潟と海の生き物、名古屋港の水質を実感しよう
 - ・ 参加者数 1,310人
 - ・ 開催期間 H31年4月20日～R2年2月15日

- ・ 3R活動講座等運営事業
スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した
発信情報 イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等

【推進委員会の意見】

指標について、質の向上を目指して、実態をより把握可能な指標を追加し、詳細を分析することで、環境の変化に対応できる企画を検討していく必要がある。また、エコスクールについてアンケート等で満足度を把握することで、次回以降の企画に反映できるとよい。
(エコスクールの指標候補) 定員に対する参加者割合、応募者数、満足度等
(生活情報アプリの指標候補) アクティブユーザ数、ページ閲覧数等

【総合的な評価】

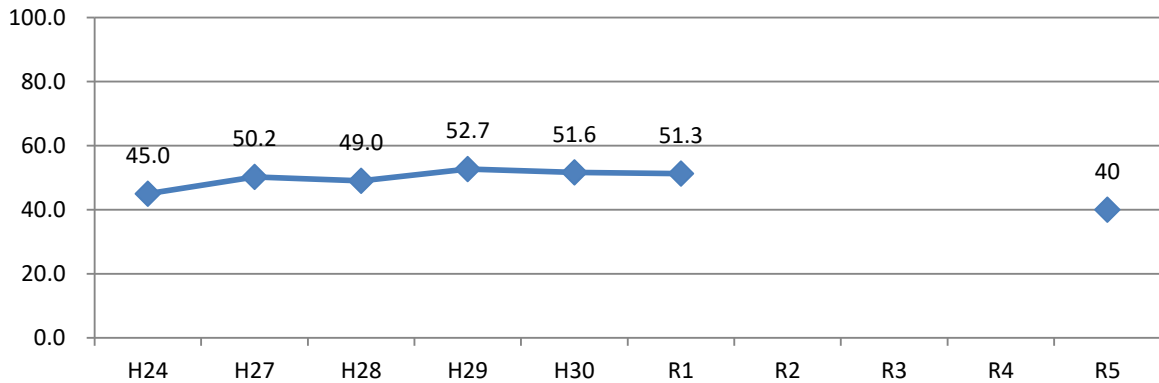
概ね順調に推移しているが、今後は人数等だけでなく内容を含めて、より良い事業となるよう事業の実施方法等を含めて改善を図っていく。また、そのために実態をより把握できる指標・アンケート等を検討する。

環境の柱2 環境対策

環境分野 2 大気・はいじん

きれいな空気を守る

成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合(%)



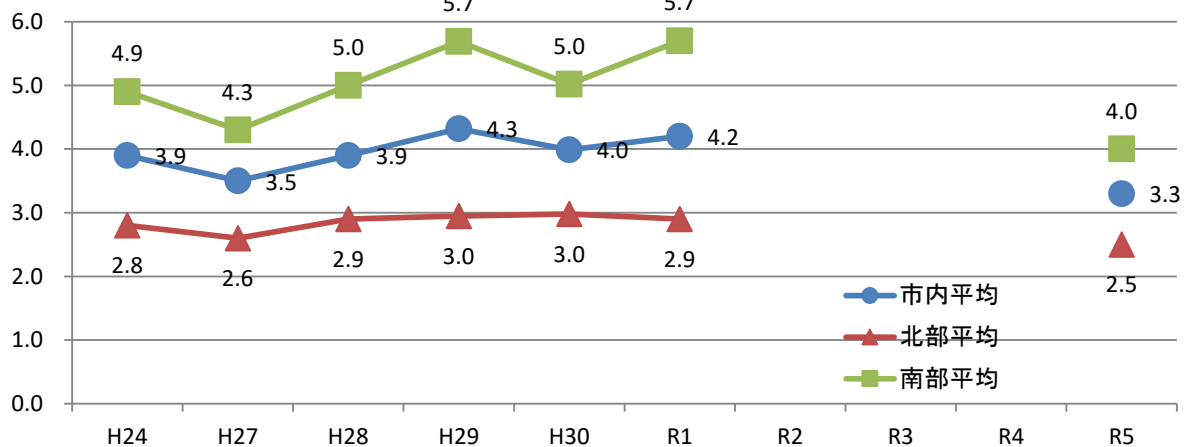
成果指標の分析

前年度と比べ0.3ポイント改善したが、基準値から6.3ポイント悪化しており、順調ではない。
事業所等の対策は進んでいるものの、実感に結びついておらず、市南西部の大田、横須賀地区は、指標の数値が高くなっている。

目指す方向性

40%

成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km²・月)



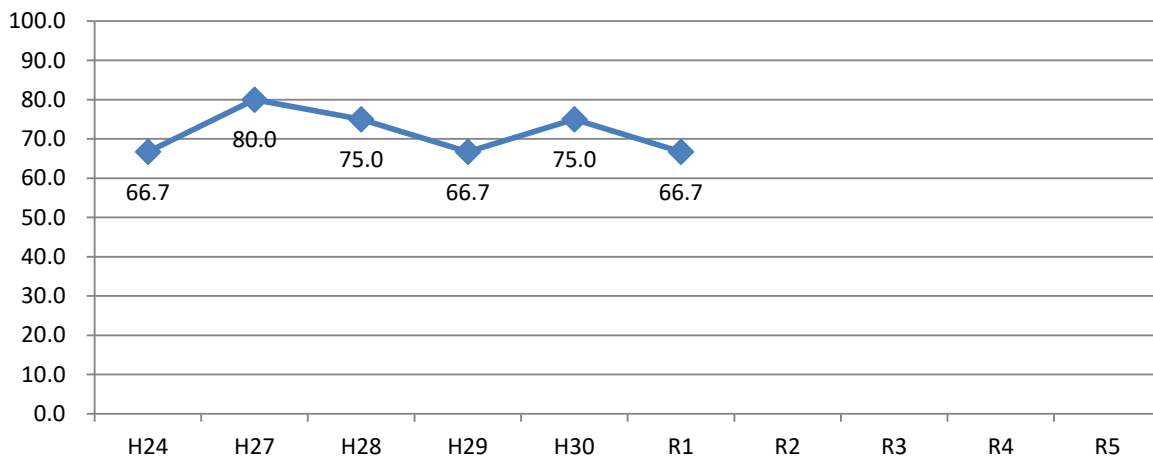
成果指標の分析

前年度から0.2ポイント、基準値から0.3ポイント悪化しており、年度により増減はあるが、順調ではない。
事業所等の発生源対策は進んでいるものの、市南西部では北部に比べて、高い数値となっている。

目指す方向性

3.3t/km²・月(市内)
2.5t/km²・月(北部)
4.0t/km²・月(南部)

成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



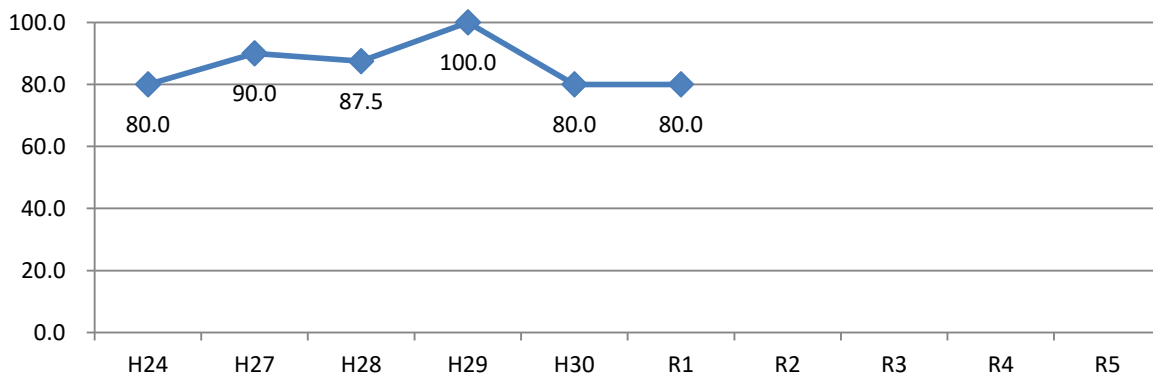
成果指標の分析

前年度に比べ8.3ポイント悪化したものの、基準値と同数値であり、おおむね横ばいで進展している。
 昼間時間帯（6-22時）は全地点で適合したが、夜間時間帯（22-6時）の適合率が低い。

目指す方向性



成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



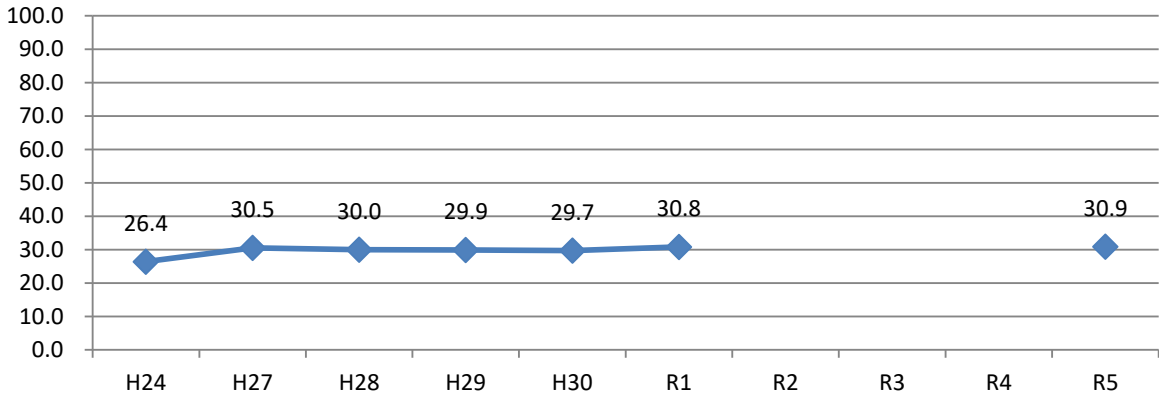
成果指標の分析

対前年度、対基準値のどちらも同数値であり、横ばいである。
 5つの地点で測定しているが、昨年度と同等の傾向となっている。

目指す方向性

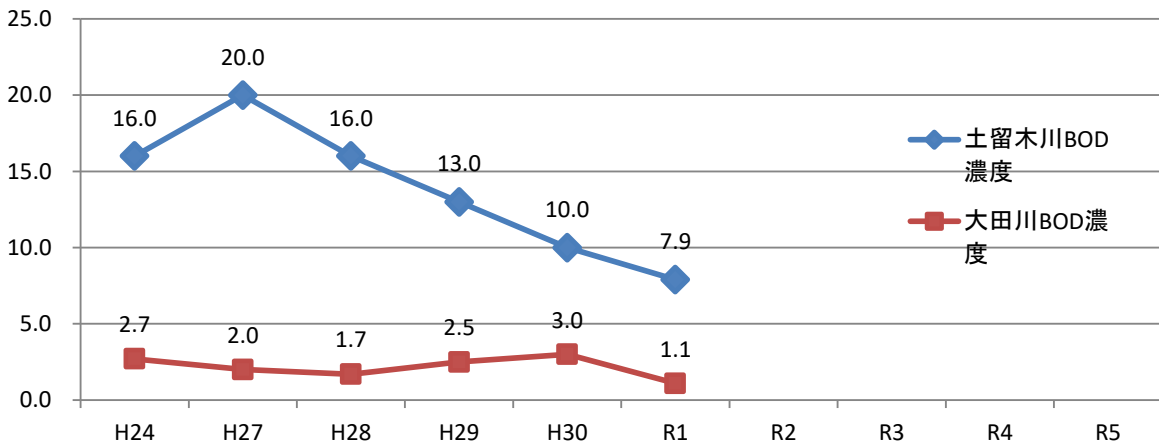


成果指標7 市内の川の水がきれいであると感 じている人の割合(%)



成果指標の分析	目指す方向性
対基準値4.4ポイント、対前年度1.1ポイント増加しており、地区や年齢によってばらつきがあるものの、10年後めざそう値に向け順調に進展している。下水道建設等の環境整備が影響していると考えられる。	30.9%

成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/l)



成果指標の分析	目指す方向性
土留木川は、前年度と比べ2.1ポイント、基準値と比べ8.1ポイント改善しており、順調に進展している、これは、下水道接続率の向上の影響と考える。 大田川は、前年度と比べ1.9ポイント、基準値と比べ1.6ポイント改善したものの、年度によって増減があり、横ばい傾向である。これは、季節や天候による水質調査への影響と考える。	

【主な事業】

・大気分析事業

大気汚染の状況を把握するため、大気分析を実施した

【分析項目】

降下ばいじん、粉じん苦情による金属分析、浮遊粒子状物質中の重金属分析、ダイオキシン類分析、ばい煙分析、硫黄分析

・騒音測定事業

幹線道路近辺に居住する市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした

・自動車騒音の面的評価、道路調査、建物調査、騒音調査、交通量調査

・臭気分析事業

空気のきれいな住環境を維持するため、臭気を測定し、事業者の対策状況を確認した

・三点比較式臭袋法による測定
・測定地点 6地点（2事業所）

・水質分析事業

住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した

・河川（8地点）、ため池（16地点）、工場排水（16地点）の水質分析

【推進委員会の意見】

降下ばいじんについて、事業所が費用を掛けて対策は行っているものの、市民にその内容が伝わっていないと感じることから、市民の理解を深める活動が必要である。また、市民の意見を取り入れて改善をしていく仕組みがあるとよい。近年は数値が良くなっていないこともあり、重点的に対策を行って進めてほしい。

また、河川のBOD濃度の改善に比べ、川の水がきれいであると感じる人の割合が伸展していない。数値的な清濁度の改善だけでなく、河川におけるごみのポイ捨て・自転車投棄対策等の目に見える対策を検討してほしい。

【総合的な評価】

水質の指標は順調に推移しているが、騒音の指標は横ばいで、大気の指標は順調でない。

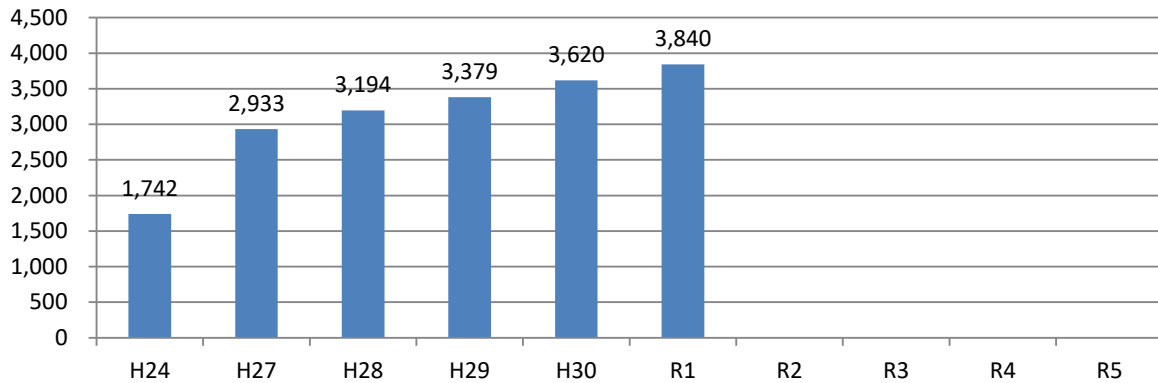
降下ばいじんについては、これまでの対策を継続しつつも、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進める。

環境の柱3 環境保全・再生・創造

環境分野 5 地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

成果指標10 太陽光発電システムの累計設置
件数(件)



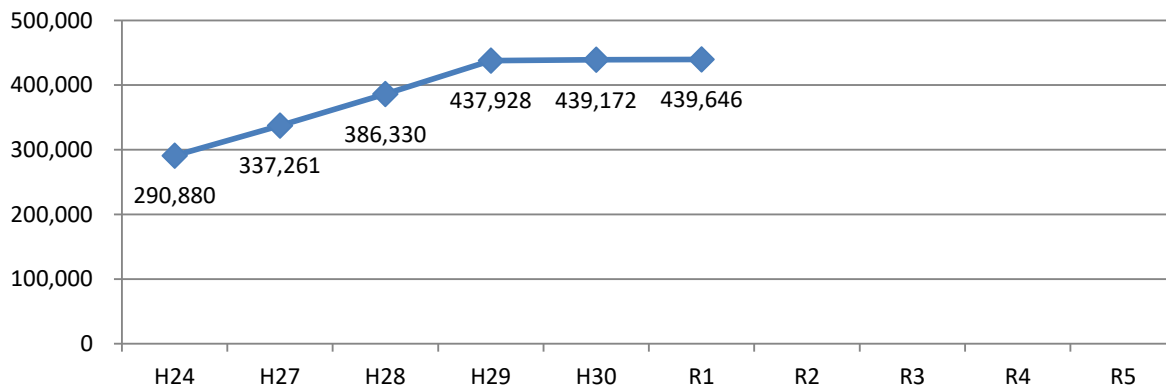
成果指標の分析

累計設置件数は、前年度に比べ220件、基準値より2,098件増加しており、順調に進展している。
太陽光発電システム等設置促進補助事業の効果が表れていると考える。

目指す方向性



成果指標11 らんらんバスの年間利用者
(人/年)



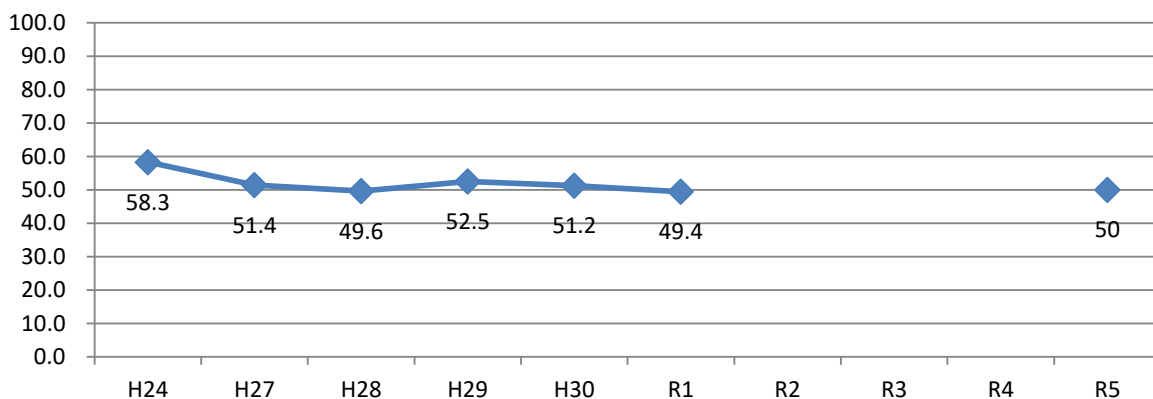
成果指標の分析

新型コロナウイルスの影響により3月は大きく減少したが、前年度に比べ474人の増加となり、全体としては順調と考えられる。
今後は、安全運行に配慮したダイヤ改正、朝夕便やルート延伸を含む利用者の利便性向上を図ったルートの改定について検討及び協議を進めていく。

目指す方向性



成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



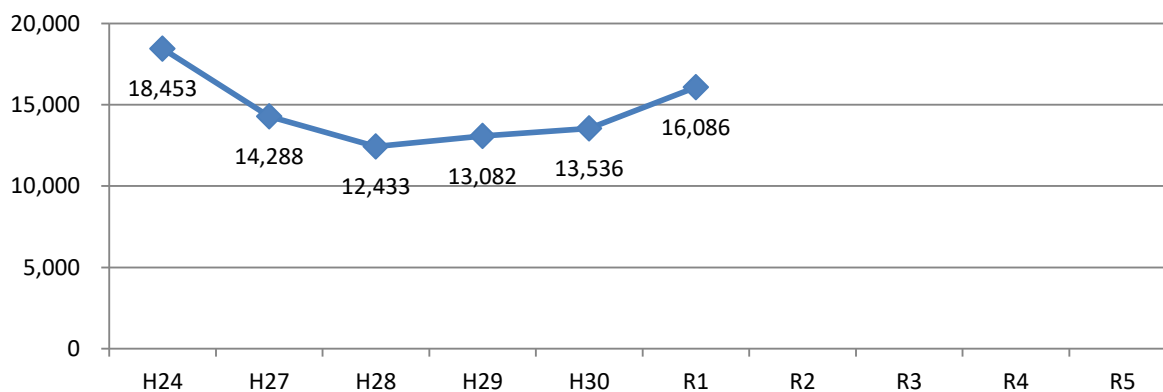
成果指標の分析

対前年度1.8ポイント、対基準値8.9ポイント改善しており、順調に進展している。
 年齢別では、年齢が上昇するほど割合が低下する傾向があり、学区では明倫・船島小学校区が高い。

目指す方向性



成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



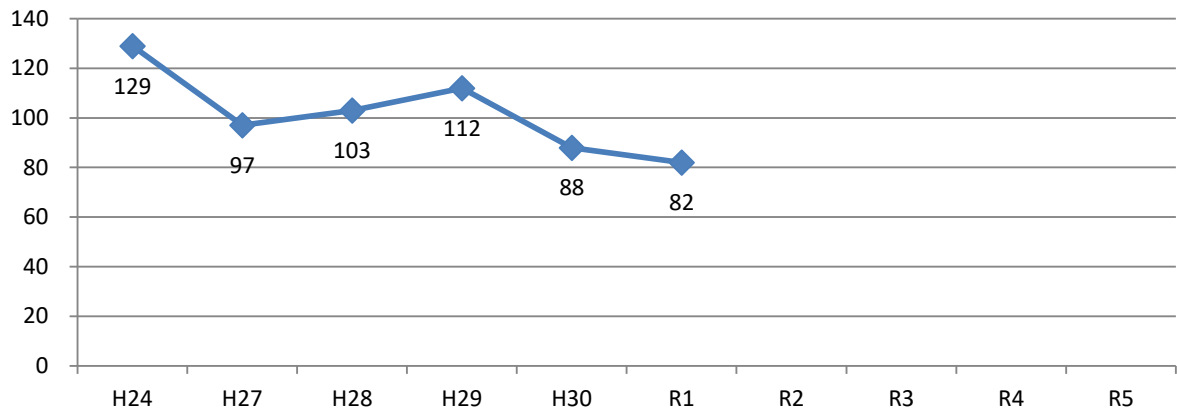
成果指標の分析

前年度に比べ2,550人増加しているが、基準値に比べ2,367人下回っており、順調ではない。
 市民行動月間におけるコミュニティ及び町内会連合会の一斉清掃の参加人数が2,316人減少したが、それ以外の団体や個人の参加人数が4,866人増加したことによる。

目指す方向性



成果指標 14 地域の清掃活動に参加した団体数（団体）



成果指標の分析

前年度に比べ6団体減少している。基準値に比べ47団体減少しており、順調でない。
 市民行動月間における一斉清掃に参加したコミュニティ及び町内会連合会の団体数に増減はないが、それ以外の団体の参加数が減少したことによる。

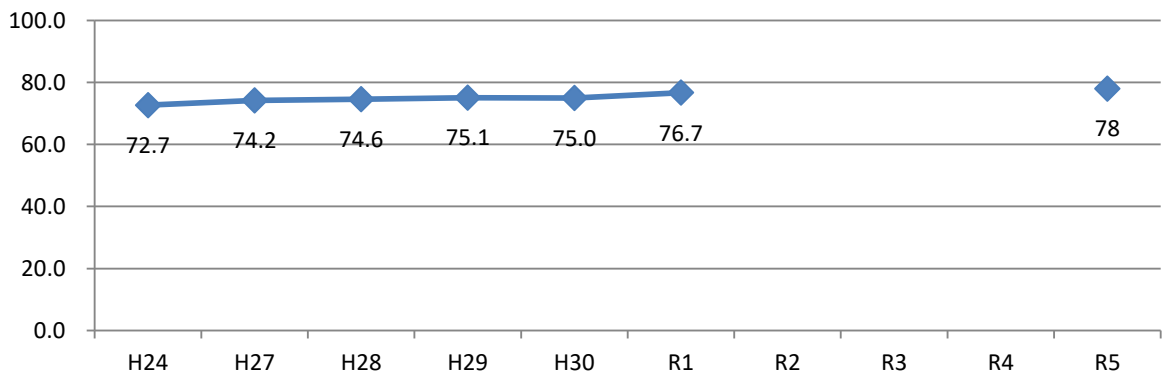
目指す方向性



環境分野 7 緑・水・生き物

人と自然が共生できるように、環境保全活動を推進する

成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合（%）



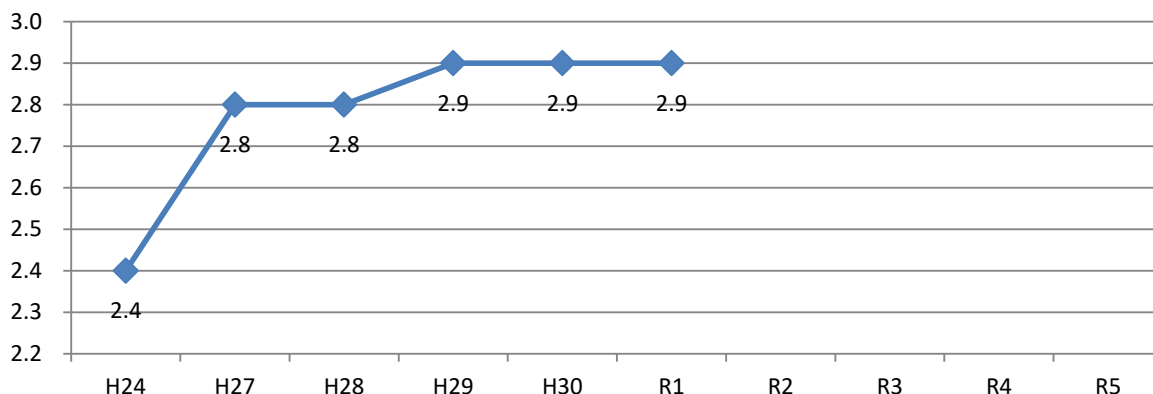
成果指標の分析

対前年度1.7ポイント、対基準値4.0ポイントの向上となっており、順調に進展している。
 都市公園の整備を計画どおりに実施できたことと、花いっぱいのもちづくり運動を充実できたことが要因であると考えられる。

目指す方向性

78%

成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



成果指標の分析

対前年度は変わらないが、基準値と比べ0.5ポイント増であり、順調である。

目指す方向性



【主な事業】

- ・ 太陽光発電システム等設置促進補助事業
再生可能エネルギーの利用の促進のため、住宅用太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池システム及び電気自動車等充電設備の設置に対して補助をした。
- ・ 地域美化推進事業
ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。
 - ・ ごみ散乱防止市民行動月間 6月、9月
- ・ 自然環境再生事業
『ふるさとの自然』を保全・再生し、次世代に継承していくことを目的として、ホタル、オニヤンマ、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶ市民イベントを開催した。
 - ・ 場所 加木屋緑地、大池公園
 - ・ 内容 フジバカマ植栽会、ヘイケボタルと竹灯籠観賞会、自然観察会 等

【推進委員会の意見】

概ね順調に推移しており、今後も地道な活動を継続的に実施していくことが望まれる。

一方で、コロナの影響で清掃活動が実施できない、太陽光発電制度の見直し、市内の宅地開発の進展等、世の中を取り巻く環境が変化している中で、対応について検討していく必要がある。中でも、世界的な気候変動への対応として、国が推進する令和32年（2050年）の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目標として対策の推進を図る必要がある。

【総合的な評価】

清掃活動の参加者数及び参加団体数の指標は天候等の影響もあり順調でないが、それ以外の指標は概ね順調に推移している。

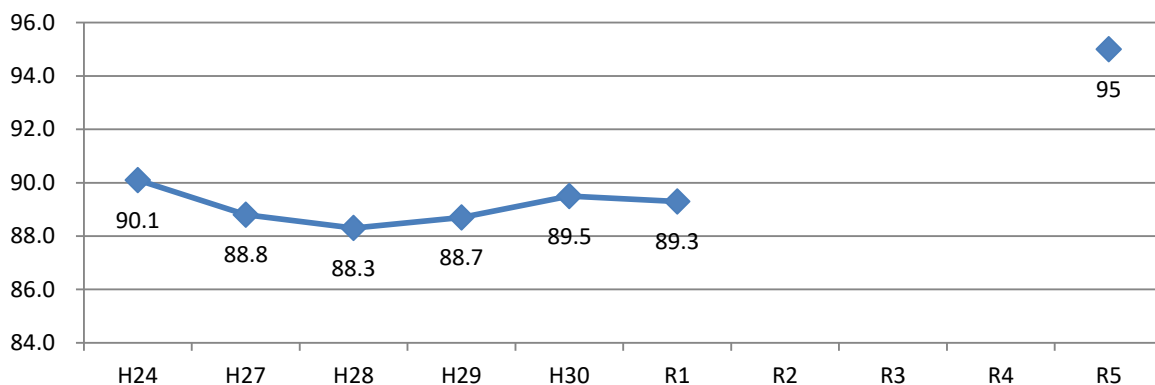
引き続き、これまで実施している対策や普及啓発活動を地道に実施するとともに、取り巻く環境に対応していけるように新たな対策を検討していく。

また、二酸化炭素排出量の削減に向けて、これまで実施してきたことに加え、市民・事業者・行政の各主体が取り組むべき内容について検討を進めていく。

環境の柱 4 循環型社会

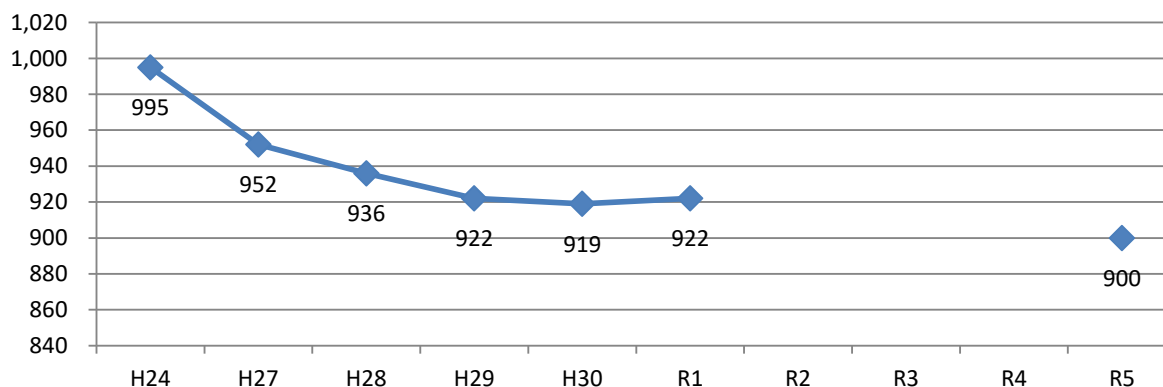
環境分野 8	3 R活動	ごみ減量と資源化を推進する
--------	-------	---------------

成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)



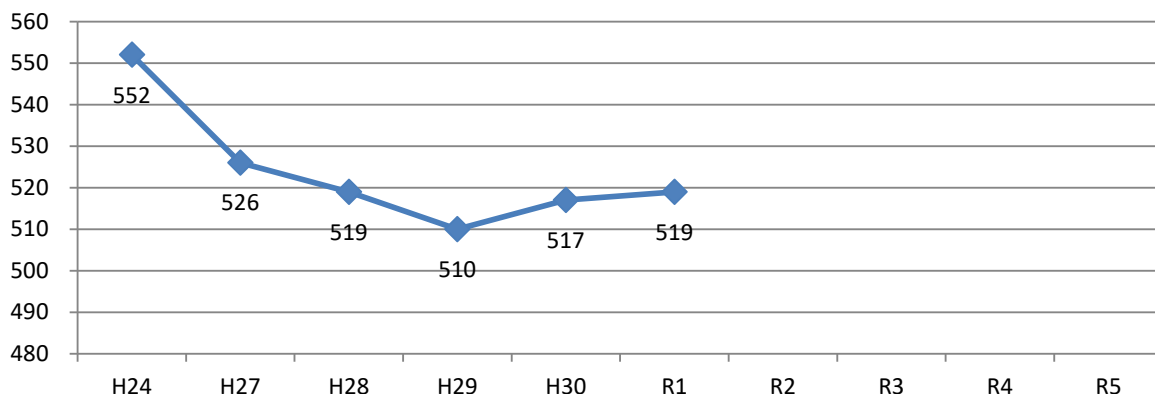
成果指標の分析	目指す方向性
指標の推移は、H24(2012)の基準値を下回っているものの、高い割合を継続的に維持しており、横ばいであるが良好な数値である。 年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態はH24(2012)以降続いている。	95%

成果指標18 市民一人当たりのごみの総量(g/人・日)



成果指標の分析	目指す方向性
一人1日当たりのごみの総量は年々減少傾向となっていたが、R1(2019)は昨年度と比べて3g/人・日増加した。 これは、資源の回収量が250t(5,131t→4,881t)減少した一方で、ごみの総量が669t(31,061t→31,730t)増加したためである。	900g/人・日

成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量(g/人・日)



成果指標の分析

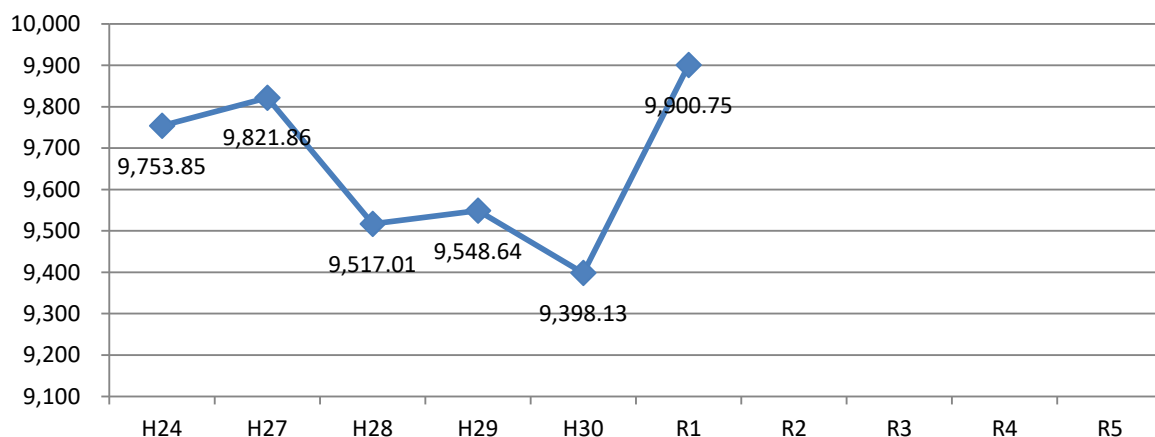
年間の家庭ごみの総搬入量(資源を除く)は毎年減り続けていたが、R1(2019)はH30(2018)より2g/人・日増加した。これは、R1(2019)に解体家屋が増加したことにより家財等のごみが多く搬入されたことが原因と考えられる。基準値との比較では、33g/人・日の改善となっている。

目指す方向性



減らす

成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



成果指標の分析

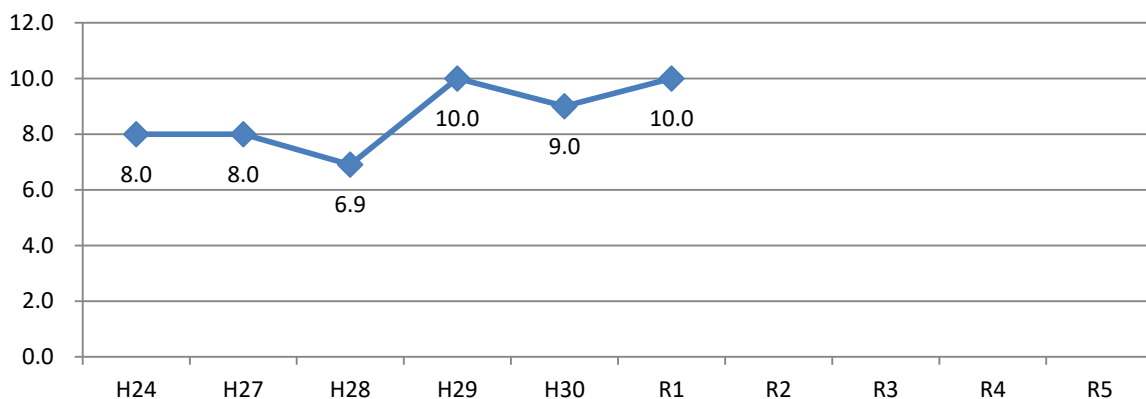
事業系ごみの総排出量は年々減少傾向にあったが、R1(2019)はH30(2018)に比べ約503t増加した。これは、民間施設が受け入れていたごみが、事業縮小や受入制限等により清掃センターへ持ち込まれたことによるものと考えられる。

目指す方向性



減らす

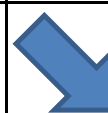
成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



成果指標の分析

資源材料の品質向上のため、H29(2017)に中間処理設備の見直しなどを行ったため、不適合物の混入割合は10%前後で推移している。
各家庭から排出される段階で不適合物を減らすことも必要であるため、広報等で行き続き市民に周知を行っていく必要がある。

目指す方向性



減らす

【主な事業】

・リサイクルフェア開催事業

ごみの減量に向けた市民意識の向上と行動につなげるため、リサイクルフェアを実施した

- ・開催期間 R元年(2019年)5月24日～26日
- ・場所 市役所地下大会議室、第1駐車場
- ・来場者数 約1,500人
- ・内容 ごみの中の宝物展、フリーマーケット、啓発展示等

・資源集団回収事業

ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子供会等が行った資源の集団回収を支援した

- ・団体数 116団体(R元(2019).4.1)
- ・回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
- ・回収量 2,541 t

【推進委員会の意見】

・ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合は横ばいであるが、高い割合を維持しており、良好であると考えられる。また、プラスチック製容器包装の不適合物の割合は他市町村と比較すると遜色のない数値であるが、より向上のために具体的な回収方法等をPRできるとよい。

・ごみの排出量の指標について、資源ごみと単なるごみが同じように排出量に含まれていることから、資源ごみは増やす指標として、単なるごみは減らす指標とした方がよい。

・指標19でごみの量が増えているのは、断捨離・終活・亡くなった後等の大型ごみの処理が増えているからであり、これらについて市民向けのPRをしていくとよい。

・指標20で令和元年度が大きく増えているのは、民間のごみ回収事業者の閉鎖によるものであるが、この傾向は今後も続くことが想定されるため、この水準から減らしていくという前向きな方向性を出してほしい。

【総合的な評価】

ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合について、若年層に改善の余地が大きいため、生活情報アプリの活用等を含め、PR方法を検討しつつ、より一層の啓発活動を行っていく。

また、一方で高齢者層の増加及び終活意識の向上に伴うごみの排出量増加が考えられるため、高齢者向けの啓発活動も検討していくとともに、より効果的に実態を把握できる指標について検討を進める。

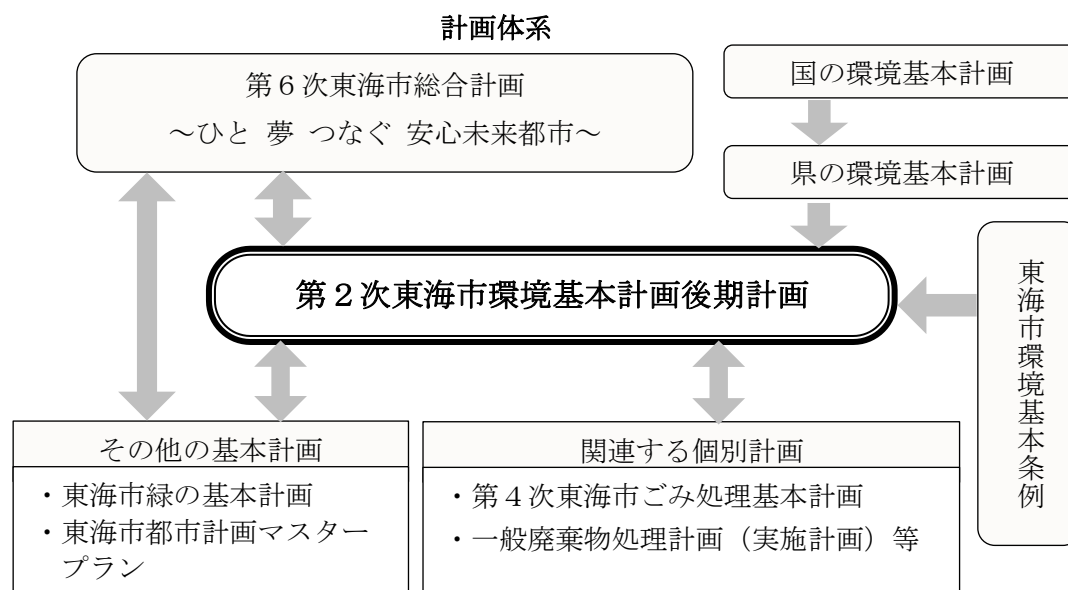
参考資料

1. 環境基本計画の概要

(1).計画の推移及び体系

本市では、平成17年(2005年)に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成19年度(2007年度)に「東海市環境基本計画」を策定しました。本市は、この計画にビジョンとして掲げた「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政の協働を推進し、さまざまな環境施策を推進してきました。

平成28年度(2016年度)には、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、「第2次東海市環境基本計画」を策定し、さらに、令和元年度(2019年度)には、平成30年度(2018年度)に上位計画である第6次東海市総合計画後期計画が策定されたことを受けて、「第2次東海市環境基本計画後期計画」を策定しました。



(2).計画の期間

上位計画である第6次東海市総合計画の施策や指標との整合性を図るため、次のとおりの期間としています。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

本市では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供など、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきましたが、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題等への関心が高まってきています。

第2次東海市環境基本計画では、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につながる美しいふるさと東海」の将来都市像を継承し、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていきます。

<ビジョン>

未来につながる 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

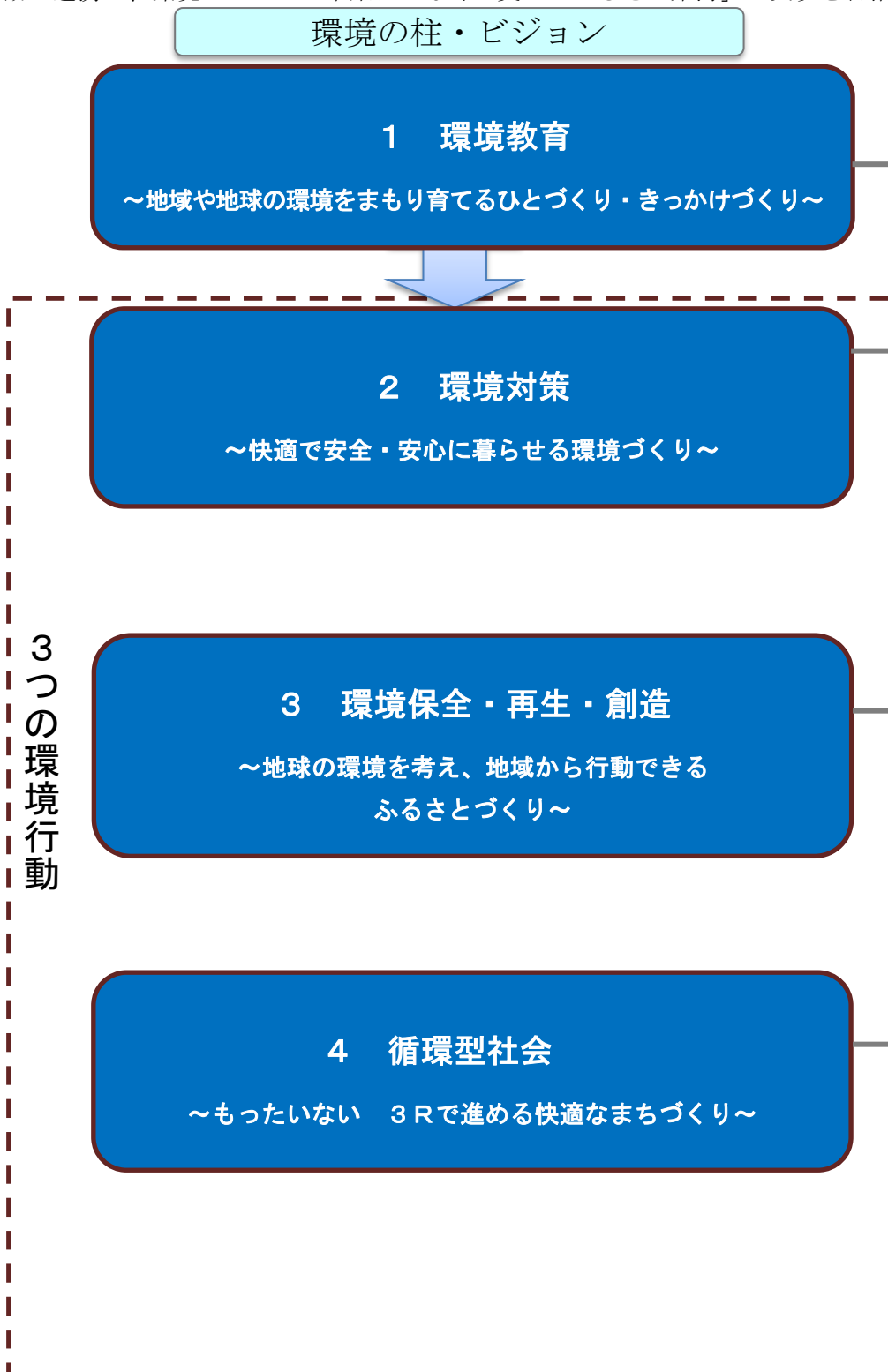
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

成果指標		算出方法
環境の柱1 環境教育		
1	エコスクールの参加者数	1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	1年間の生活情報アプリのダウンロード数
環境の柱2 環境対策		
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
4-1	降下ばいじんの量（市内平均）	市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所
4-2	降下ばいじんの量（北部平均）	市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
4-3	降下ばいじんの量（南部平均）	市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
5	環境騒音基準値の適合率	環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）で計12測定値が環境基準に適合している割合
6	自動車交通騒音基準値の適合率	自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）で計10測定値が要請限度を超えない割合
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
8	土留木川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点）
9	大田川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋）

成果指標		算出方法
環境の柱3 環境保全・再生・創造		
10	太陽光発電システムの累計設置件数	中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計
11	らんらんバスの年間利用者数	1年間のらんらんバスの利用者数
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
13	地域の清掃活動に参加した人数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数
14	地域の清掃活動に参加した延べ団体数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数
15	花や緑が充実していると思う人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
環境の柱4 循環型社会		
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	市内の都市公園面積/東海市の面積×100
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
18	市民一人当たりのごみの総量	【1年間のごみ(家庭系・事業系(可燃物+不燃物))の清掃センターへの総搬入量+分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量+市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	1年間の家庭ごみ(可燃物+不燃物)の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口
20	事業系ごみの総排出量	1年間の事業系可燃ごみの総重量+事業系不燃ごみの総重量
21	プラスチック製容器包装の不適合混合率	1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量

4. 成果指標一覧表

	成 果 指 標	基準値 H24	R1	めざそう値(R5) めざす方向性
1	エコスクールの参加者数	971 人	1,310 人	↗
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	-	8,791 件	↗
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	45%	51.3%	40%
4	降下ばいじんの量(市内平均)	3.9t/km ² ・月	4.2 t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.8t/km ² ・月	2.9 t/km ² ・月	2.5 t/km ² ・月
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.9t/km ² ・月	5.7 t/km ² ・月	4.0 t/km ² ・月
5	環境騒音基準値の適合率	66.7%	66.7%	↗
6	自動車交通騒音基準値の適合率	80%	80.0%	↗
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	26.4%	30.8%	30.9%
8	土留木川の BOD 濃度	16.0mg/ℓ	7.9 mg/ℓ	↘
9	大田川の BOD 濃度	2.6 mg/ℓ	1.1 mg/ℓ	↘
10	太陽光発電システムの累計設置件数	1,742 件	3,840 件	↗
11	らんらんバスの年間利用者数	290,880 人/年	439,646 人/年	↗
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	58.3%	49.4%	50%
13	地域の清掃活動に参加した人数	18,453 人	16,086 人	↗
14	地域の清掃活動に参加した団体数	129 団体	82 団体	↗

		基準値 H24	R1	めざそう値(R5) めざす方向性
15	花や緑が充実していると思う人の割合	72.7%	76.7%	78%
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	2.4%	2.9%	↗
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	90.1%	89.3%	95%
18	市民一人当たりのごみの総量	995g/人・日	922g/人・日	900 g/人・日
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	552 g/人・日	519 g/人・日	↘
20	事業系ごみの総排出量	9,753 t	9,900 t	↘
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	8.0%	10.0%	↘

5. 計画推進の検討過程

- 令和元年（2019年）5月25日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「平成30年度（2018年度）年次報告書の成果指標の評価について」
- 令和元年（2019年）8月7日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「平成30年度（2018年度）年次報告書について」
「東海市環境基本計画見直しについて」
- 令和元年（2019年）10月9日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「平成30年度（2018年度）年次報告書について」
「東海市環境基本計画見直しについて」

6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会 環 境	今 脇 啓 二	事業者を代表する者
副 委 員 長 社会環境部会長	社 会 環 境	山 本 隆 明	事業者を代表する者
副 委 員 長 生活環境部会長	生 活 環 境	倉 橋 和 宏	事業者を代表する者
副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長	廃棄物・リサイクル	深 谷 保	事業者を代表する者
委 員	社 会 環 境	石 原 清 文	事業者を代表する者
〃	〃	寺 島 賀 子	NPO を代表する者
〃	〃	永 井 安 広	市内に在住する者
〃	生 活 環 境	吉 鶴 弥 生	NPO を代表する者
〃	〃	南 川 陸 夫	NPO を代表する者
〃	〃	武 富 時 満	市内に在住する者
〃	〃	吉 澤 邦 男	市内に在住する者
〃	廃棄物・リサイクル	古 谷 仁 彦	NPO を代表する者
〃	〃	毛 利 まり子	NPO を代表する者
〃	〃	田 中 治 幸	市内に在住する者
〃	〃	森 岡 良 枝	市内に在住する者

令和元年度（2019年度）版 東海市環境基本計画年次報告書

●編 集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター
東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課
〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地
TEL 052-603-2211/0562-33-1111
FAX 052-603-6910
URL <http://www.city.tokai.aichi.jp>
E-mail kankyou@city.tokai.lg.jp
